

因に當日の勝負左の如し。

×(京二中) 長谷川 武夫

宮川得意の臥業にて頻りに敵を屠らんとせしも敵も生憎臥業の得意にて、只「エイヤ、エイヤ」ともみ合ふばかり、遂に勝敗を決せずして引けとなる。

×(小濱中) 福井 繁三

敵は中々の大武者振り、絶らず味方を屠殺せんとせしも、流石に味方も一方の勇者！ 應戦頗る宜しきを得たるにか、遂に雌雄を決せずして引けとなる。

○(廣島中) 小林 三吾

牧野の早や業、敵もさるもの、兩虎上下轉倒、暫しが程もみ合ひしが容易に勝負決すべくもあらず、不圖、敵、牧野をおさへ込むや、牧野必死となりて逃れんとせしも、運拙く、牧野竟に敵の毒牙にかかる。

×(天王寺中) 萩野 敏男

茂森、得意の巴投げを以て、頻りに敵の隙を伺ひ、攻撃す、敵危地に陥ること屢々なりしかど、時間の都合上、雄雌を決するに至らずして結局引合となる。然れども我方に充分の勝味を有せり斯道の達人なりしが、我が方も流石一方の大將、而して我が校本日最終の試合なり。自信を以て、將た又責任を以て、敵と奮戦せしが竟に敵に傷を負はす能はず、無念にも引合となる。我が選手の試合もこれを以て終結を告げれば、必勝し得ざりしを怨みつゝ九日午後歸彦せり。

#### 武術部報寒稽古

大正十一年一月十日より十九日迄十日間亘寒の骨髓に徹する時、我が道場は血氣溢るるばかりの赤鬼健兒に賑はされた。絹綿會社の滝笛が黎明の大氣をかすめて金龜城下にひゞき渡る時、我等は早や床を蹴つて月影氷る路を踏みて道場に向つたむく／＼する腕、赤き熱血の漲る我等が胸を、寒氣凜烈たる道場に發揮するは寒稽古ならでは味ふ

抄に會は潤がれた。夜來の雨は漸く止んだが、暗雲低く垂れて多少氣遣はれる空模様であつたけれど共、十時頃には全く晴れ去つて、呼出しの聲は滑み切つた秋の空氣に大きい波動を起してそこまでも高く傳はつて行く様であつた。天幕の中には先生方のニヨ／＼顔が見受けられ、一般觀覽者も中々多數にあつた。今日は五年級修學旅行の出發である爲め時間の都合上最初第一年級、次に五年、四年、二年、三年の順序に行はれた。

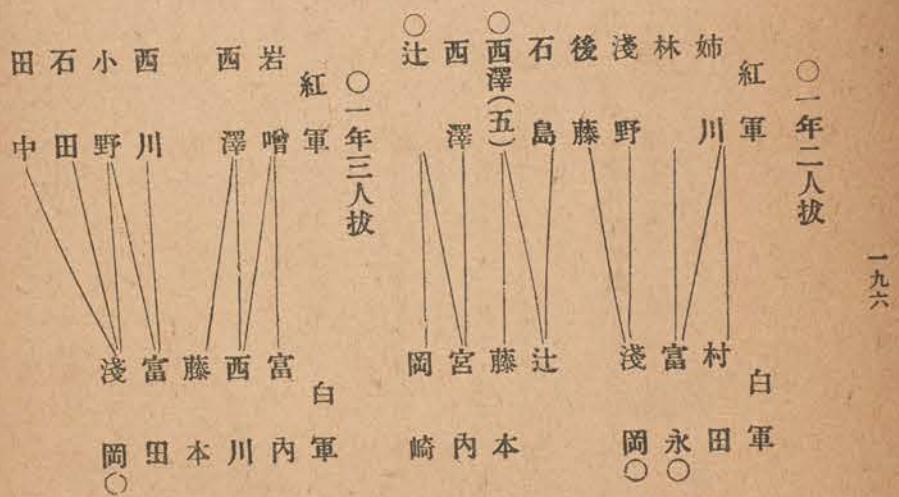
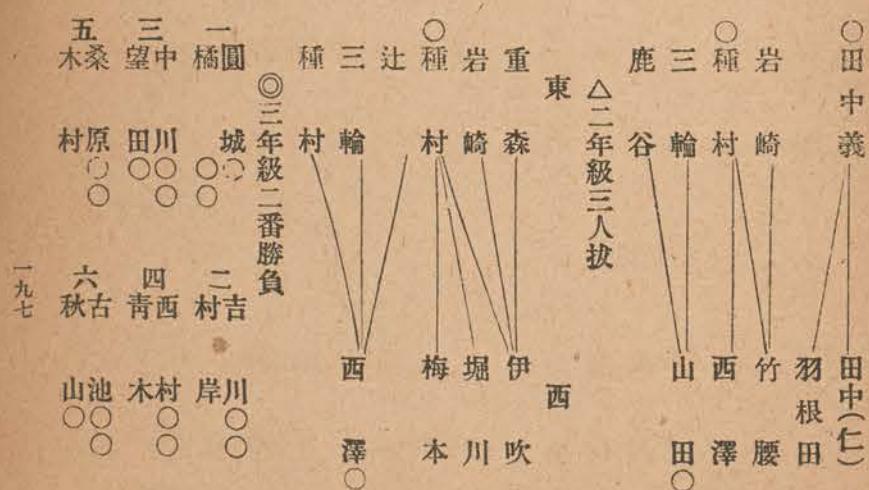
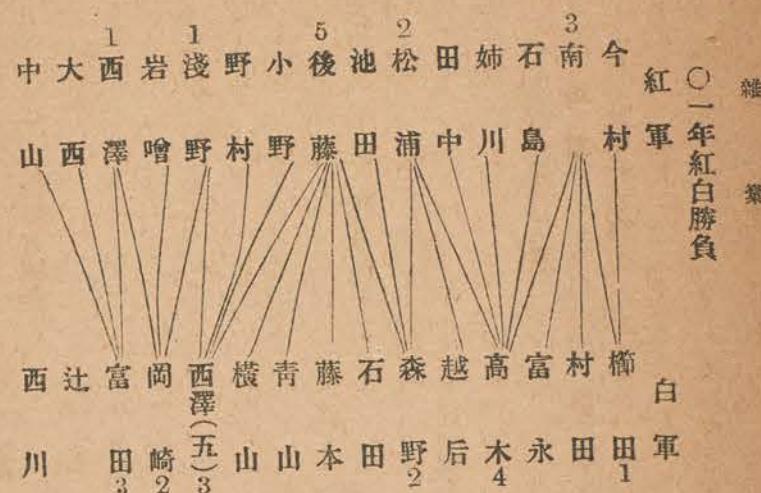
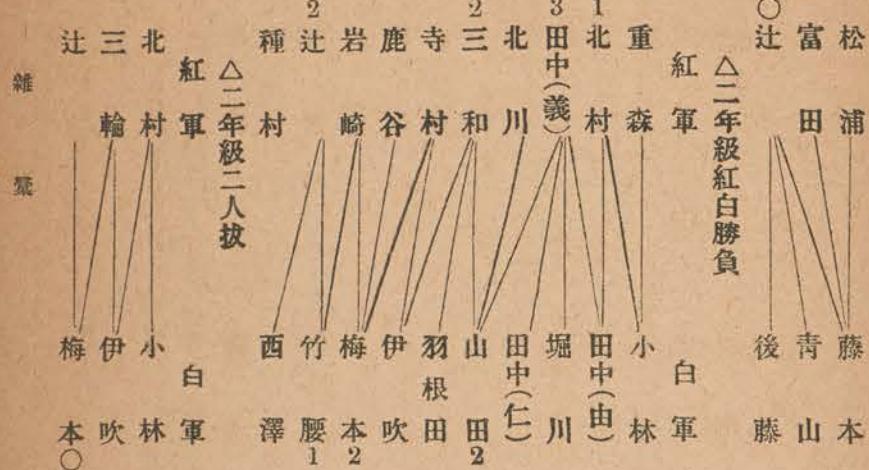
段々取組が進行すると共に出演者の熱も加はり觀客もいつしか拳をかたく握つてゐるのであつた斯くて此の大會が恙なく終つたのが午後四時、城山の鐘の音に夕べの氣が追々近づいて来る頃であつた。

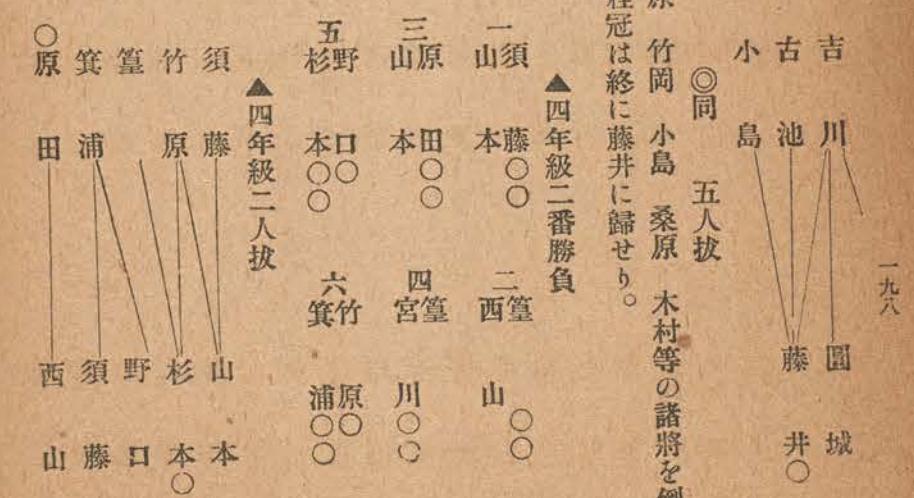
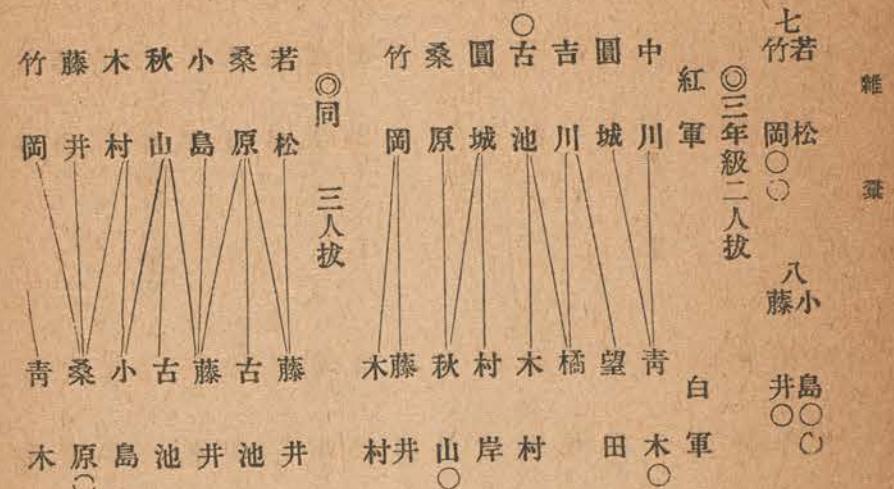
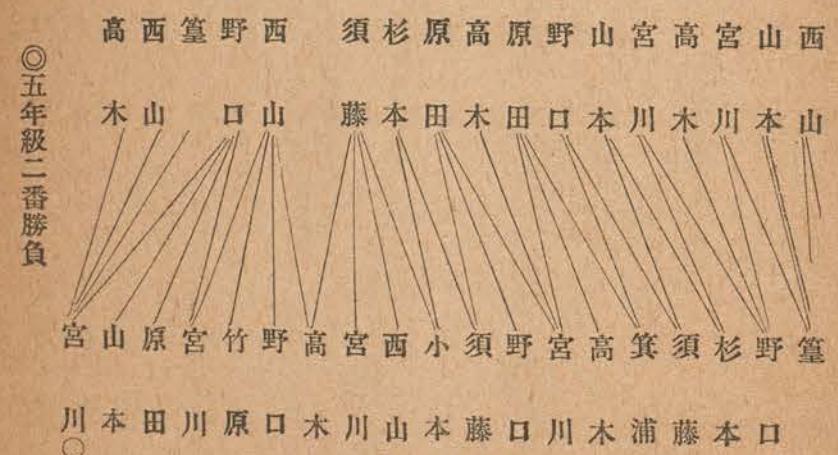
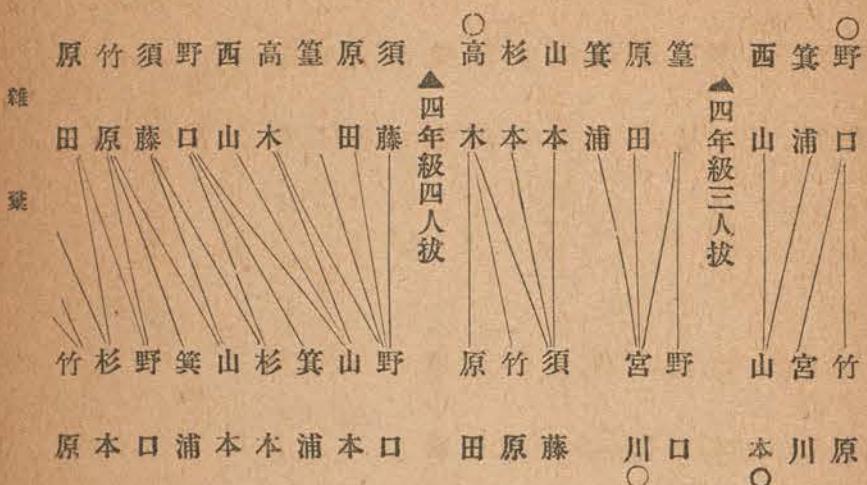
最後に今日の番附と勝敗の記録とを次頁に留めて置かう。

#### 相撲大會の記

本校年中行事中の一壯舉、聞くから若人の血を湧かし肉を躍らす相撲の大會は今日、十月三日行はれた。

第一期限の掟業を畢つて午前九時半、部長の挨





野北高垣竹堀北北杉牧垣杉松西坂北宮瀧小  
 村村山木見中部村川本野見下下川東村尾本山  
 北垣榎北宮牧西小野瀧宮堀宮高北野千三榎  
 川見本川尾野川山山村本尾部尾山村村種原本

松西小三牧坂榎堀高西瀧牧松北宮北牧瀧  
 下川山原野東本部木川本野下川尾村野本  
 北北瀧野宮北北垣瀧植宮野小高榎垣西堀小宮  
 村川本村尾村川見本田尾村山木本見川部山尾

堀野瀧杉宮竹瀧垣牧野竹  
 部村本本尾中本見野村中  
 北榎西牧植北高小西高高  
 村木川野田川木山川木山  
 ○五年級二人拔  
 ○五年級三人拔  
 九七五三二  
 高堀千北垣西北瀧小牧  
 山部種村見川川本山野  
 十八六四二  
 三杉宮坂松高上竹榎野  
 原本尾東下木田中木村  
 ○○○○○○○○○○

高杉松  
 木本下瀧宮西  
 木下東尾見野中  
 野北小三坂堀植高  
 本尾川 村村山原東部田木 見山村尾原木川  
 ○五年級五人拔  
 ○五年級三人拔  
 杉瀧千野小宮  
 下本種村山尾  
 垣西北宮三榎北

植田垣見千牧官尾種野川本瀧北千

### 庭球部報

#### 戦績

昨冬、押谷、福永、山本、鹿島、毛利、白髭の諸兄を失ひたる、我部は伊吹の残雪未だ解けず、風なほ寒き四月一日といふに春季練習を開始せり母校を愛する念深き十余名の選手は、新に迎へたる瀧口部長の御懇切なる御教導と先輩諸兄の叱咤の聲に勵まされて猛烈なる練習をなしたり、

對京都師範戰記

春季練習にて鍛へに鍛へし鐵腕もて、四海の敵を蹂躪すべく、先づ第一に京都二中、京都師範と戰ふ爲、五月八日午前六時九分發下り列車にて、本年度最初の遠征の途に上れり。京都に着くや直ちに京二中に到り挑戦せしが、彼選手不揃の故を以つて應せず。止むなく京都師範に向へり。彼京

本校	京師	本校	京
藤澤田	宮×一三	藤原	高橋一
西伊川	三一×	北川尾	三一
小川	森×一三	太田	高橋一
西伊藤	森	田	平一
西川	×一三	黒田	太
西伊藤	谷	田	平一
西川	口	田	木野

對大垣商業戰記

五月廿二日、昨日まで危ぶまれて居た天候も、今日は打つて、變つた晴天で實に絶好のテニス日和となつた。此の日、我部は、大垣商業の桃戦に

應じ本校々庭に於いて戰ふ事となれり。戰績左の如し  
我軍大いに奮闘力戰せしも其の効を奏せず、惜しくも勝をゆづれり。

◎河吉村三一(高)居三一(白)	木本(高)橋居三一(淺)	井河居三一(河)	合井居三一(河)
田一(高)橋居三一(高)	田一(高)橋居三一(高)	田一(高)橋居三一(高)	田一(高)橋居三一(高)
富田一(高)橋居三一(高)	富田一(高)橋居三一(高)	富田一(高)橋居三一(高)	富田一(高)橋居三一(高)
澤田一(高)橋居三一(高)	澤田一(高)橋居三一(高)	澤田一(高)橋居三一(高)	澤田一(高)橋居三一(高)
宮二一(中)島(高)橋居三一(高)	宮二一(中)島(高)橋居三一(高)	宮二一(中)島(高)橋居三一(高)	宮二一(中)島(高)橋居三一(高)
伊藤三一(石)崎居三一(高)	伊藤三一(石)崎居三一(高)	伊藤三一(石)崎居三一(高)	伊藤三一(石)崎居三一(高)
西伊藤三一(高)野居三一(高)	西伊藤三一(高)野居三一(高)	西伊藤三一(高)野居三一(高)	西伊藤三一(高)野居三一(高)
西伊藤三一(高)瀬居三一(高)	西伊藤三一(高)瀬居三一(高)	西伊藤三一(高)瀬居三一(高)	西伊藤三一(高)瀬居三一(高)

對京都二商戰記

我等が大垣商業と火花を散らして、戦ひ居りしが最中、京都二商は、六組の陳容を整へて金城鐵壁の我が金龜城下へ攻め寄せたり。茲において我が戦士は必ず此れを一蹴し以て午前中の汚名を雪かすんば、いかでか校友諸兄に見

五月十四日名古屋新聞主催第六回全國中等學校庭球大會出場之記

名古屋新聞主催第六回全國中等

都師範は、斯界の勇なりと雖も我何ぞ恐れん。衝天の勢を以て、此に當れり。  
我よく戰ひよく防ぎたれども、選手の大部は初陣と言ひ殊に大將高橋數日來の風邪の爲足許定らず、日頃の「當り」を見ること能はず、遂に彼がコート上の露と消わたり。噫無念!乞ふ校友諸兄の御寛恕を。

本校	京師	本校	京
藤澤田	宮×一三	藤原	高橋一
西伊藤	三一×	北川尾	三一
小川	森×一三	太田	高橋一
西伊藤	森	田	平一
西川	×一三	黒田	太
西伊藤	谷	田	平一
西川	口	田	木野

て東海の雄岐阜中學を斃せしも第二回戦に於て烈風砂をまき爲に、非常なる苦戦におち入り、遂に敵手鞠學院に勝ちをゆづれり。

於比中校庭縣下中等學校庭球大會參加之記  
彦根驛頭歡呼の聲に送られて勝たすば生きて歸らすと、心に誓ひたる十名の戰士は、目的地比中指して出發せり。戰績左の如し

## 第一回 戰

本校	伊藤	西川	三一〇師範	(高江田)
本校	(高富)	橋田	三一〇比中	(児島)
本校	(澤藤)	宮田	二十三膳中	(山本)
本校	(高地)	平橋	三一一師範	
本校	(吉河)	居村	不戰勝	

## 第二回 戰

本校	(吉河)	居村	二十三膳中	(中江村)
----	------	----	-------	-------

本校	(伊藤)	西川	三一長濃	(横松村)
本校	(高富)	橋田	三一二八商	(伊竹井藤)
本校	(西地)	平橋	三一一八商	(福井村)
本校	(伊西)	藤川	三一二膳中	(竹見内)

## 第三回 戰

本校	(伊藤)	西川	二十三膳中	(淺梅景)
本校	(高富)	橋田	二十三膳中	(山本)
本校	(高地)	平橋	二十三膳中	(堀川村)
本校	(伊藤)	西川	二十三膳中	(島内江部)

## 第四回 戰

本校	(伊藤)	西川	二十三膳中	(島内江部)
本校	(高富)	橋田	二十三膳中	(川島)
本校	(高地)	平橋	二十三膳中	(堀川村)
本校	(伊藤)	西川	二十三膳中	(島内江部)

## 第五回 戰

本校	(伊藤)	西川	二十三膳中	(島内江部)
本校	(高富)	橋田	二十三膳中	(川島)
本校	(高地)	平橋	二十三膳中	(堀川村)
本校	(伊藤)	西川	二十三膳中	(島内江部)

スコーアの示す如く第三回戦よりは全然膳中との對校試合となり、よく奮闘せしも武運拙く、彼

膳中をして遂に名をなさしめたり。噫此の時の戰士心中や如何ばかり、噫！無念敗後に當りて諸兄の熱誠なる應援を謝し御寛恕を乞ふ、

## 夏季練習

苦しい／＼一學期の試験もすんで、諸兄が思ひのまゝに楽しい日を送つて居られる七月廿六日より、我部選手は、旅館西澤に合宿し、炎熱焼くが如き日中に、泥に塗れたユニホームに身を固めて猛烈なる練習をなせり。大阪醫專庭球部選手開田氏コーチの下に。かくて朝は八時より夕は七時まで、ボールに親しむ事數日、此處に大なる自信を得て練習を終へしは七月卅日なりき。

## 於濱寺大坂毎日新聞社主催全國中等學校

## 中等學校庭球大會參加之記

金銀も溶かさぬ許りの三伏の暑氣誠心こめて練習せし我部は澤田藤宮をして濱寺の檜舞台に出征せしめたり。總軍敵地に突撃したる兩人は大なる抱負を以て戰ひしが戰に利あらず、遂に大松樹の

下に憤死せり。

## 四高大會參加之記

夏季練習にて鍛へし腕を以て北陸の猛者連を一蹴し一學期の不成績を回復し以て、校友諸君に謝さんものと、固い／＼決心をもつて、七月卅一日北陸の地金澤指して駒を進めぬ。されど悲しい哉我が部の大將にして花役者たる高橋勉、前日よりの病氣の爲め其の妙技を發揮するを得ず且つ他の選手も烈しき暑熱と夏季練習との爲め其の疲勞甚だしくして活動自由ならず。遂に敵手敦賀商業に勝をゆづれり。噫かくして懸命の努力も其の効を奏せずして彦根に歸れり。なげきの中に歸彦せし戰士は來學期こそは互に固く誓ひて家路につけりせず、遂に黒煙都市に於て憤死せり

## 大阪齒科醫專主催全國中等學校

## 庭球大會參加之記

四月以來、暑き日も寒き日も苦心慘憺研究を重ねたる我が部は、伊藤地平をして、齒科醫專庭球大會に出陣せしめたり。彼等兩人は本校の名譽を双肩に擔ひてよく奮戰せしも天はあくまで我に與

## 戰 績

第一回戦 對上の宮中學 三一勝  
第二回戦 對市岡中學 三一二負  
かくして彼等戰士は憤死せりと雖も、其の活動  
り振は勇ましく、彼市岡をして心膽を寒かさしめたる事も數回ならざりき。

京都高蚕主催全國中等學校庭球大會參加之記

時是れ十月中旬京都高蚕校の招待に應じ、我部新進の河村吉居組は、中京へと向ひぬ。我が軍よく善戰せしも、武運の我に與せざるを如何にせむあはれ出征戰士平和に誇る洛陽の地に於て花々しく戰死せり

大正十年度慘敗の稿を終つて。

大正十年度に於ける試合も、長農校庭に開かれたる縣下中等學校庭球大會を以つて名残多き終りを告げました。顧みるご、春尚ほ淺き四月人々の遊山よ、何よと浮かれて居る頃から、暑熱焼くが如き三伏の候も秋も暮れなんとして伊吹の山に雪の降りかゝりたる十月月の終りまで、懸命の努力をせし其の効もなく戰ふ毎に敗れ、我校の名譽を損

しく度か、校友諸兄の期待に反き遂に敗戦の中に本年度をすこしました。

寛大なる諸兄！ ござぞ僕等の胸中を察して此

の敗戦をお許し下さい。

富田記

因みに來年度の本部選手は左の如し

(河村) (吉居) (伊藤) (河村) (布施) (高橋) (若林) (山田)

京 都 遠 征 (野球部)

我部は五月八日本學期第一回の遠征をなす。雨天の爲午後一時半より二中校學に於て二中試合を行なす。本校先攻。

第一回表原三振せしが、竹中三捕失に生き、一壘の逸球と盗壘に三壘に至りしか、牧野若林の凡打に止む。  
裏山本二飛、戸野右翼飛球、木村三振に無爲。  
第二回表藤本四球に出でしも、二盗ならず、清水前川三振裏藪内三遊間安打村上の遊捕に封殺され、淀野の二捕に又封殺され長谷川アゴロに無爲。

三回表 森左翼安打に出で、松本の二捕に送られしも原三振竹中の遊捕に止む。

裏立木遊捕に倒れしも、長濱の四球山本の遊捕に封殺され戸野の三捕に送られしも、木村三振に倒る

四回表我材無爲。

裏藪内左飛失に生き、二盗の後村上の安打に生還淀野捕飛に倒れしも、長谷川の左越安打に村上還り後援續かず。

五回表清水二越安打に出で、盜壘と逸球に進みしも、本三間に憤死し、次打者三振。

六回表に死後、竹中遊捕失に生きしも、牧野の校側に空し。

裏村上三振し、淀野長谷川凡打。

七回表向軍無爲。

八回表前川遊越安打に出でしも、後援なし。  
裏死後、藪内三捕失し、村上の四球と、淀野長谷川の安打に一舉三点を占む。

九回表竹中二遊間安打に出でしも、後援なく、五

本	校	原	中	野	林	木	水	川	本	5A	0
審判	小	林	(序)	上	林	(序)	上	林	本	5A	0

一中	新加	岸	田	柳	井	口	米	田	打數	二
P	C	IB	IIB	SS	LF	CF	TF	打數	二	一
若林	前原	藤	竹	中	森	清	松	本	得点	二
牧野	前原	藤	竹	中	森	清	松	本	得点	二
小城	氏	上	田	氏	上	田	氏	上	得点	二

四安打得点二  
死球四五  
三振五六  
四死球四

球審  
邊審

## 大垣中學遠征記

五月拾五日の日曜を幸ひ、大垣中學岐阜中學と戰はんと大垣に向ふ。然るに岐中は斷りしを以て、オール大垣軍と戰ふ。左に概略を記せん。

## 大垣中學對本校大垣中先攻

兩軍共に三回に至るまで良く守り良く攻めしかば、点をなさず。四回に至り、我軍一点を先取せしのみ。一對零の記錄を以て八回に至り、我軍一点を加ふ。然るに九回表に至り垣中よく攻め、打撃一順し、一舉三点を奪ひ、形勢逆轉せり然るに我軍九回裏に於て原二壘打し、次いで前川中堅をおびやかしし時、藤本俄然中堅越二壘打を放ちて、四A對三のスコアを以て苦戰の結果勝つ。

## 全大垣軍對本校

次いで大垣中學校庭に於て、大垣中學の先輩及び他實業團を以て組織せられたる全大垣軍と戰ふ我軍竹中を陣頭に立て、牧野遊撃に退き戰ふ。然るに本校猛打に猛打を以てし、一回六点、三四回二点、六回二点、七回に於て三点を收め、計十三点を擧ぐ。

大垣軍よく攻めしも及ばず。十三A對零のスコアを以て大勝す。メンバー左の如し。

大垣		中		石大杉高小加白伊		18		3189		大垣	
田	岩橋岡木山藤木藤	5	3	2	8	6	1	4	5	7	3
中	水野林川瀬本	28	4	A	6	7	2	9	8	5	7
校	竹清牧若原前森野藤	數	點打振球	打	得安	三四	本	8	3	6	241795
本	682843795	打	得安	三四	本	8	3	6	241795	大	中平高小波野北裏

## 京都商友對本校

六月五日京都實業團の重鎮商友の挑戦に應じ、本校庭に於て午後二時五拾分戰を開く。

商友先攻、我軍二回に一点、三回に一点、五回三点六回五点、七回一点を收め、十一点を占む。商友先攻せしが、我軍の爲めに弄せられ顔色なし

## メンバー左の如し

商友		本		田井口里藤口村村		30		零2101		大	
商	瀧弘澤山九近阪宮中	遊	捕	三	左	二	投	中	右	36	A1056
本	水川中野林	清	前竹牧若原野森藤	本	中	一	二	遊	捕	II	打
											擊
											點打振球
											打
											得安
											三四

## 京都一商對本校

梅田の二壘打に一舉四点を收めしも、次打者凡打。

四回表前川二飛、牧野三飼と、藤本の三振に終る裏敵軍原田の遊失に出下しのみ。

五回表若林左安打に出てしも、清水の二飼に封殺され、後援續かず。

裏古藤四球に得出しのみ。

六回表一死後、竹中中飛失に出てしも、敵投手に生還。

裏河瀬四球に出てしも、投手にはからる。裏一死後、古藤四球に出てしも、二盜に刺され田中Pゴロに終る。

裏一死後左安打が三壘打となり、八木投手に退。

九回表我軍最後の攻撃なり。牧野三壘をかすめる安打に出て、藤本三飼に送られ、若林の遊失

裏敵軍一死後、安江中前安打と、川越二遊間安打と、古藤二失と、田中の四球に満壘となり、

裏安打に出て、藤本三飼に送られ、若林の遊失

三回表我軍敵投手に弄せらる。

裏敵軍一死後、安江中前安打と、川越二遊間安打と、古藤二失と、田中の四球に満壘となり、

裏安打に出て、藤本三飼に送られ、若林の遊失

三回表我軍敵投手に弄せらる。

と清水の安打に二点を收む。當日のメンバー左の如し

商	木原	内竹江	越	藤中	田河瀬
京一	八原	竹岩安川	吉田	梅	河瀬
校	HIB	PSSP	CF	C	RF
本	SS	IB	P	HIB	CO
					CF
					LF
					RF
					HIB

得点 2  
打數 32  
安打 4

### 東海遠征

京津大會も間近くなり東海遠征を企て、岐中愛知一中八高の三校と戰ふべく土曜日より岐阜に行きて岐中と戰を交へ、翌日愛知一中及び八高の二校と戰ふ。

### 岐中對本校

我軍この日よく打ち、第一回四点、二回六点四回一点、五回一点、六回三点を收め、計十五点を數ふるに反し、

敵軍振はず。我軍竹中を投手盤に立てゝ戰ひしも、僅かに一点を收めしのみ。大勝す。

メンバー左の如し

校	輪山保	本野	島島井
中	三下	久比	森
一中	大山	日	島
	左遊捕	投	田小主
	三	二	右
遊	下	中	三
一	遊捕	投	右
遊	三	中	右
校	中川野	本	森
	竹前牧	藤	瀬
	前	若	原
	遊	捕	左
	一	投	右
第八	高等學校	對	本校

打數 三十六  
得点 六六  
三振 八八  
四死球 六九  
安打

打數 三十五  
得点 三五  
三振 八八  
四死球 七七  
安打

打數 三十五  
得点 三五  
三振 八八  
四死球 七七  
安打

りしも、次者凡打、我軍敵投手にはからる。  
▲五回四球に出で、安打に一点を得。我軍無爲。▲六回四球と三翼打に一点を得。敵投手の腕さへ來り、投捕三振に空し、七回敵一点を得。九回にも亦一点を得たるに及し我軍次第に衰へ、六對三にて破らる。

東海の強敵八高と戰ふ。八高は名古屋に於て一中と弱を争ひ、或ひは勝ち、或は敗れ、雌雄を決せんご毎年戰ふ強チームなり。午後本校は一中校庭に於て八高と戰ふ。本校先攻、

第一回兩軍無爲▲二回若林右翼失に出で、原の投捕一失に生還、敵軍辻安打に出でしも、次

岐中	田光崎	田谷	山村	藤
本	篠平	熊森	關葛	植伊
校	中川野	本	森	瀬
遊	竹前	牧	藤原	若森
一	遊	三	二	捕
遊	投	三	二	捕
球審	今森氏	轟審	下村氏	

打擊數 三十三  
得點 二二  
四死球 十三  
安打

打擊數 三十三  
得點 二二  
四死球 六

### 愛知一中對本校

我部は昨年の恨を晴すべく名古屋に乗り込み、始時より伊藤氏大喜多氏の下に開始す。一中先攻今其概略を記せん。

一回、一中劈頭三振喫し凡打に終り、我軍も牧野安打に出でしも後援なく▲二回田島の安打ありしのみ。若林遊失に出でしも、本壘を溢みて憤死す。續で野瀬四球に出で敵の失策に乗じて一点を得、原も本壘に還り二点を先取す。▲敵第一打者四球に出でしのみ。本校二死後森右翼失に出でしのみ。▲四回敵軍劈頭森二翼打に出で、四球と四球に一死満壘とな

我部は京津大會に參加せん爲、慶應長谷川物集

### 京津大會の記

我部は京津大會に參加せん爲、慶應長谷川物集

二氏をコーチとし、十六日より鐵をも溶かす暑さ  
も物とせず、毎日炎天下に瀧の如き汗を流しつゝ  
練習を重ね。

然るに不幸竹中十六日より病魔に冒され、部員  
一同心痛せしが、幸試合前日より全快し、遊撃を  
守らしめ、京都に向ふ。敵は東山中學なり。  
しかも大會第一回の晴の試合なり。我軍は自重に  
自重を重ね、死力を盡せしかば、漸く第一回の敵  
を破るを得たり。劈頭第一回のマツチの事とて、  
この試合を見んと、さしもに廣き同志社大學のグ  
ラウドも地方好球家を以て山をなせり。八時半十  
七校の入場式を行ひ、委員長の訓示あり。後中澤  
博士の試球式あり。我軍の先攻に、九時試合開始  
審判は尾家柴田兩氏なり。

我校劈頭打者清水中澤博士の始球式に軽く振る  
第一回表 清水 悠々ボーグスに入り、軽く遊撃をお  
そひ過らせ、續く三飛に倒れしも、盜壘と竹  
中の遊匍に捕失に一点を先取せしも、牧野三  
匍に止む。

裏、松山遊撃に軟打して倒れ松蔭左飛 小島三飛

裏、大津伊川二者三振し三浦二匍に空し。

第五回表、若林原二者三振し、森二失に出でし  
も野瀬三振。

裏、北川一匍に腕くも倒れ、三輪投飛、松山一  
匍に無爲。

第六回表、藤本投匍に倒れ、清水四球に出でし  
も前川中飛竹中遊匍に無爲。

裏、松蔭四球に出で、小島遊匍に二壘に進み、  
矢倉三壘遊球及び大津の四球伊川投匍に二点  
を取り返し、三浦左翼飛球に止む。

第七回表、牧野劈頭左翼二壘打し、若林の三匍  
裏、北川の死後三輪遊越安打に出で捕失、進み  
しも松山二匍松蔭三振に点を成さず。

第八回表、小島の三振後、矢倉の二匍失と一壘  
の逸球に二壘に及びしも、大津三匍伊川の投  
匍に空し。

裏、清水遊越安打に出で、前川の左翼三壘打に  
還り、竹中三匍に前川還り、牧野の三失に二  
匍に空し。

に無爲

二回表、若林遊撃を抜く安打に出で、續く原三  
振に倒れ、森の遊直に併殺を喫す。

裏、東軍矢倉劈頭遊越安打に出で、主將振りを  
發揮し、二壘を盗みしが、大津左飛に倒れ、  
伊川三振し、三浦中飛に天倉残壘に空し。

三回表、野瀬一匍失に出で、藤本一二間安打に  
無死二一壘にありしも、清水三振し、前川の  
三匍に三壘に及びしも、竹中惜しくも投匍に  
點を成さず。

裏、北川遊失に出で、三輪の投ゴロに進み、松  
山の三壘打に一点を得、續く松蔭の三越安打  
に生還せしが、小島矢倉の二者三振。

四回表、我軍牧野三越安打に出で、直ちに二壘  
を盗み、若林四球、原の三壘の内野安打に無  
死滿壘となり、森の三壘を抜く安打に二点を  
收め、野瀬三振に一死になりしも、藤本の三  
壘打に二点を收め、清水の三壘ゴロに藤本還  
り前川四球竹中左翼安打に出でしも牧野遊匍  
に無爲、

壘に至り、竹中牧野重盜せしも、若林三振原  
四球森の投匍に空し。

第九回表、野瀬三越安打に出で、藤本の投匍に  
二壘に及び、清水の遊越安打に一点を占めし  
も竹中牧野三振に三振。

裏、三浦遊匍に倒れ、續く北川遊匍に三輪の中  
飛に止み、我軍十一對四にて勝つ。

京一中對本校

本校は第一日東山中學を破るを得しも、第三日  
京都の雄京都一中と戰ふ事となる。我軍死すまで  
戰ふ。

第一回表、清水投匍一失に生き、前川三振、竹中  
遊匍に三壘に及びしも、牧野捕飛若林捕飛に  
止む。

裏、新畑三振暴投に生き、尾柳投匍鶴澤三振に  
遊匍に三壘に及びしも、牧野捕飛若林捕飛に  
止む。

この時雨霏霏と降りしきり、試合する能はざりし  
爲ドロングームとなる。

## 第三回戦、京一中対本校

第一回、清水投手に前川投手竹中遊撃に空し。

裏、新畠遊撃に倒れ淺見四球に出でし時、尾柳

三塁打して磯田バンドに二点を得しも、鶴澤

二塁に倒る。

第二回表、牧野左飛若林三振原一、二間の安打と

見ぬしも、一塁に倒る。

裏、柴田三塁芦田三振岸本二塁に止む。

第三回表、森捕ゴロ、野瀬三振し、藤本遊撃に空

し。

裏、辻井中飛に倒れ、新畠淺見我投手に弄せらる。

第四回表、清水選球四球を利し、前川のバンドに

進みし時、竹中三遊間安打に本塁に殺到して

一点を取る。

牧野若林共に凡打に終る。

裏、尾柳磯田の凡打後、鶴澤三遊間二塁打し

柴田四球に出でしも、芦田一塁に点をなさず

第五回表、我軍原森共に遊撃に倒れ、野瀬二塁に

無爲。

## 第八回表、野瀬藤本の二者三振し、清水捕飛に敵

投手の腕益々冴々來れり。

裏、尾柳遊安打と鶴澤の二塁打に一点を加へ柴

田芦田凡退。

第九回表、前川三振し、竹中三飛、牧野三振に最

後の攻撃を終る。

裏、岸本三振し辻井死球に出で、新畠三振し

淺見の遊撃に終り、四対二のスコアを以て敗

る。

裏。岸本劈頭左翼安打し、辻井バンドと新畠の

内野安打に生還、一点を加ふ。淺見三振。

第六回表、清水投ゴロ前川遊撃に倒れ、藤本二

に倒れ、我軍敵に懲まさる。

裏、尾柳遊撃に出で、磯田バンド鶴澤四球に出

でしも、新畠淺見の凡打に凡退す。

三塁を得、原の三塁に還る。

裏、敵軍芦田安打に出でしのみ頗る引きしま

れり。

## 彦根体育俱楽部主催岐滋聯合野球大會記

細見柳田澤田田本井	打數	三十五
中 新浅尾磯鶴柴芦岸辻	安打	三十八
一 捕中二一遊投右三左	四死球	三三八
水川中野林	盗塁	三十三
本校 清前竹牧若原森瀬本	打數	三十一
中一遊投捕二左右三	安打	三十一
場所 三高校庭 審判(球)金畠氏(壇)森氏	四死球	三十一

「光陰矢の如し」とやら、月日のたつのは早いもの、昨年のあの慘敗の涙の未だかはかぬ間に、早や大會は迫り來ぬ。

京津大會後、前遊撃手竹中を投手盤に立て、新

選手辻を遊撃手とし、如何にしても本年は優勝せざるべからずと毎日先輩連の指導に従ひ、火

の出る如き猛練習を續けぬ。戰ふべき時は來ぬ日頃練りたる赤鬼の腕を示すべき時は來ぬ。

我軍は大會劈頭に岐阜中學と戰ふ事と成りぬ。

如何に春の遠征に大勝せしとはいへ、其後新投手

を立てて練習を重ねたれば、中中悔るべからざる敵也。此日十月十六日朝晴く晴れ、グランドには

白綿延々と引かれ、神々しき程也。八時半入場式

あり。優勝旗の返還式も終り、愈々戰は始りぬ。

未だ朝早きに觀客は場内に多く集れり。やがて

應援團の拍手に迎へられ我軍選手は意氣揚々とベ

ンチに就きぬ。兩軍の軽いフリーバッティングシートノック終りて、岐阜先交試合は始りぬ。球審は

三高の中島氏監審は平井氏戰はんか、時季いたる

## 京都遠征

十月十七日の岐滋二縣聯合野球大會を目前に控へて、辻を遊撃に守らしめ、竹中を遊撃より投手に立てゝ、京都同志社二中の二校に練習試合をすべく八日(土曜日)一泊にて京都に向ふ

## 同志社對本校

我軍よく戦ひて敵の投手の球を打ちて、兩軍五回迄に一点をも入るを得ず。六回に及び我軍一回点を先取し、七回一点、八回三点を入れて五点を收むるに反し、同志軍九回に一点を得しのみ。我軍五A對一にて同志社を破る。

京二中對本校の試合は七對四を以て本校敗る。

の應援歌が終れば、中島球審の澄み通つたる「ブーレボール」の聲に、平塚郡長さつとボールを投れば、球は若林捕手のミットに入り、岐中第一打者篠田軽くバットを振りぬ。

第一回表、岐中篠田二ストライク後投手へ軽くバントし危く一壘に生く。次打者平光B安打に封出で走者一二にあり。竹中投手先づ三打に封じ、次打者に球を投げんとせしが、捕手の3B好投に刺さる。森田Bにフライをあげ止む。

裏、「グレートバッター清水」と勵まされて清水悠々ボックスに入り、二振後カツと中前に絶好の安打をし、二盗の後前川の投バンド、に三壘に進み、前川又一壘に生く。次に竹中左翼前に二壘打を飛ばし、前川清水相次いで生還し、我軍先づ士氣揚る。原四球に出でしも敵投手猛然として立ち、藤本若林芳岡の三人を三振さす。(得点○—一)

第二回表、竹中投手の得意のドロップに敵三人三振凡打に止む。

裏、野瀬P飛込三振、清水3Bゴロに止む(得点零對零)

第三回表、田中關谷三振、篠田Pゴロに無爲。裏、前川左飛失に生き、竹中のPバンドに送られしも、原遊ゴロ死後藤本2B安打し、前川竹中生還、若林遊ゴロ失に出でしも。二盗に刺さる(得点零對一)

第四回表、平光四球を利せしも、山田のHIBゴロに二壘に刺さる。次打者森田二ゴロに山田刺さる。森田二盗後熊崎左飛絶好の二壘打に森田生還、伊藤三振。

裏、我軍敵投手に翻弄せられ、吉岡野瀬凡打辻三振。(得点一—〇)

第五回表、葛山HIBゴロ死後、田中四球に出で、關谷篠田に送られしも、3B本壘間に挟刺せらる。次打者亦四球に出でしも、篠田Pに捕手の好投に刺さる。

裏、清水前川竹中凡打に止む。(得点○對〇)

第六回表、山田遊ゴロ失に出で、二壘手の逸球に進み、森田のHIB安打に生還、森田二盗せしも

右翼よりHIBの球に刺さる。熊崎右飛伊藤三振に止む。

裏、原中飛後藤本三振、若林Pゴロに止む。(得点○對〇)

第七回表、敵我投手に翻弄さる。

裏、吉岡P飛、野瀬HIBゴロ、辻三振に止む。(得点○對〇)

第八回表、篠田、平光共に三振を喫し、山田遊ゴロに止む

裏、清水前川凡打の後、竹中中前に安打せしも後援なし。(得点○對〇)

第九回表、敵軍最後の攻撃なれば、各打者自重に自重せしも、竹中の強肩に敢なくも三振し、無爲。(○對〇)

斯くして我軍は四對二プラス△を以て勝なり

本校	清水川	中	田	岐	SS	IB	P	C	LF	IB	CF	RF	SS
	前	竹原	光	中	HIB	P	HIB	HIB	CF	HIB	CF	RF	四死球
	藤本	藤	平	山	藤	C	O	O	RF	CF	CF	SS	七振三
	若林	若	熊	山	山	L	R	R	LF	RF	RF	打數三十	打數三十
	吉岡	吉	伊	中	中	三	三	三	三	三	三	三	三
	野辺	野	葛	谷	谷	死	死	死	死	死	死	死	死
	辻	辻	藤	谷	谷	死	死	死	死	死	死	死	死
	中島氏(球)												

第一回戦對八幡商業

第一日幸ひ岐阜中學を破りしも、第二回戦は年來の怨敵八幡商業なり我等の肉は躍り血は湧きぬ我等は種々策戦。をこらし、名譽の月桂冠を得んと自重す。怨敵八高は前日苦戦の結果、滋師を葬り、意氣軒昂たり。八商對本校戦はこれぞ大會の準優勝戦なりと、衆人この試合を見んもの十重二十重に人垣を築き。五百の彦中應援團は一壘側に、三百の八商團は三壘側に陣取り、兩軍いやが上にも緊張し、午前八時半三萬中島球審平井壘審の下にこの龍播虎搏の大決戦は幕は切つてをされぬ、本校先攻。

第一回清水悠々ボーケスに立ち、大いに選球に努めしも三振に倒れ前川衆望を負ひて立つ。果して三壘手を過らせ、二壘を占め、投手の暴投に三壘に進み、前川亦々投手の暴投に最初の貴重なる一点を占め、原四球竹中遊失に生きしも、若林の投失に終る。(裏)長谷川脆くも一壘に倒球を送つて死し、神野辻共に三制に生きず。

第二回先鋒藤本敵投手の肩の定まらざるを利し、四球に出て、吉岡又々四球に出ても、辻の遊匍に併殺を喫し、野瀬惜しくも三振に止む。  
(裏)中野三筋に倒れ、辻四球に始りて一壘を踏みしも、澁谷勝見の三振に立往生。

第三回我軍清水前川の凡打後、原應援團の期待にそむかず、中堅越の大飛球を打つて三壘打となり、續々竹中亦三壘上を掠る二壘打を打ち、原歎聲裡に生還し、若林亦一二壘間安打に一擧本壘に還りしも、若林中堅の好投に三壘に死す。(裏)上阪松井共に投手に巧みに葬られ、長谷川二筋に我軍の守備大いに堅し。

第四回藤本三筋失に生き、吉岡の捕飛後辻のパンドルに送られ、野瀬の三越の絶好なる安打に進みしも、清水脆くも三振して点を成さず。  
(裏)神野脆く三振し、辻遊直中野の遊匍に止み兩軍大いに緊張し来る。

第五回前川の三振に死し、原投飛球に死し、後竹中四球に一壘に及びしも、若林の遊匍に封殺される。(裏)辻の死後澁谷四球に出て、投匍失

に走者三壘に及び、上阪三振せしも、松井の二越安打に生還せしが、長谷川の左壘飛球に止む。  
(裏)神野遊匍失に生き、辻の二筋に封殺され、中野Pゴロ辻の二筋に空し。

第六回藤本吉岡共に二筋に死し、辻三振を喫す。  
(裏)神野遊匍失に生き、辻の二筋に封殺され、後勝見三振に死し、上阪遊匍暴投に二壘に及び、松井の遊匍を又暴投し、上阪本壘を襲ひしかど、一壘の好投に死す。

第七回我軍三者共に三振に葬らる。(裏)澁谷三筋に進み三壘盜む時、捕手暴投し、竹中本壘に殺到して、左翼手の好投に刺さる。藤本投手飛球(裏)長谷川三遊間安打に出でし、投手の索制に死し、神野三振し、辻の三振に止む。  
(裏)スコアは三對一なり。このまゝに進まんか、我軍は勝なり。然るに中野三遊安打に封殺され辻又野瀬の遊匍に封殺され辻の三振に止む。

出で、辻右翼越二壘打に二三壘に及び、澁谷の投匍失に還り、辻三壘に死せしかど、勝見死球上阪四球の死満壘の時、松井の遊匍を本壘に暴投して、敵軍勇踏して二者生還し、我軍諸君の期待を破り、武運拙なく八商をして名を成さしめ、校友諸君に、合す顔なし。

あゝ時は過ぎたり。何と言はんも詮なし。唯我等部員は此の怨みの日、此の敗を深く胸に残し、來年は是非この怨をはらさん。終りに望み應援團諸君の熱烈なる聲援と先輩諸兄の熱心なる指導とを深く謝す

#### 對同志社戰

先に我が擊破せん京都同志社中學は、十月二十日、(土曜)再び我と戰ひ、先の仇を報いんとして金龜城下に攻め來りぬ。我軍大會後て練習少かりしも、よく戦ひ最後に勝を制する筈なりしも、七回にして日くれ同志社九對本校六のままレギュレーシヨンゲームとなりぬ。同志社先攻

一回(表)井堂三飛安打に出で、厚見の四球に林田の遊匍失に無死満壘鹽瀬三筋失に井堂生還投手の三壘暴投に又一擧二点をしめしも他の凡○及三振に止む(裏)清水一ボールの後、中堅オーバーの三壘打に出でしも前川の遊匍に封殺さる。前川二盗の後原三振し竹中の二筋に止む。(得点三對〇)

二回(表)亦塙三振井堂四球に出でしも、厚見のあゝ天なり命なり。かくして我は敗れぬ。校友會諸君先輩諸兄何卒お許を乞ふ。

あゝ天なり命なり。かくして我は敗れぬ。校友會諸君先輩諸兄何卒お許を乞ふ。

遊飼林田の遊飛に止む。(裏)若林三飼暴球に二壘を占めしも、藤本の二直に併殺、吉岡四球に出でしも辻の遊飛に止む。(得点○対○)  
三回(表)鹽瀬一フクルルーポールの後、中堅オーバーの三壘打を放ち、鷺尾の三飼暴球に生還す。鷺尾岡本の中飛失に三壘を占め、捕手の晩球に還る。林四球に出でしも東技赤塚三振。(裏)野瀬前川清水共に陣頭に枕を列ねて死す。(得点2 対0)

四回(表)厚見三振の後、林田四球に出でし時、鹽瀬又もや中越三壘打を放ち、林田還りしもしも岡本凡打。(裏)我軍今度はと必死となり原先づ中前に安打すれば、竹中軽くバントせしも、これも内野安打となり、若林の絶好の三バンド内野安打に原生還。藤本の二飼を二壘手すばやく本壘へなげしも届かず。竹中生還。吉岡三振せしも、辻三振不死し、野瀬の三遊間の安打に、若林藤本相次いで還り、清水前川の死球と、原の遊飼失に辻生還。竹中

の遊飼に清水封殺されしも、野瀬還る。若林遊飼に止む。(得点1 対6)

五回(表)林三直死後、東技二越安打に出でしも赤塚の三飛に併殺さる。(裏)藤本二飛、吉岡三振、辻死球に出でしも野瀬三振(得点○対○)

六回(表)井堂三飼失に生きて二盗し、投手暴投に三壘を占む。厚見左飛後林區四球に出で、二壘を盗み、井堂と共に二三壘を占め居りしに、鹽瀬遊撃手に軽きゴロを呈せしも、遊撃手本壘へ暴投し、捕手之を逸し二者生還す。鷺尾岡本の凡打に止む。(裏)清水二飼死後前川又死球に出てしも、原三振し、竹中三遊間の安打に出てしも、若林一飼に止む。(得点2 対0)

七回(表)日既に暮れ、我軍守備困難なり。林四球に出で、二盗にあせり捕手の好投に刺さる東技又四球に出で、一壘手の球を暗黒の爲二壘手逸せし間に一擧本壘を奪ふ。赤塚遊飼失に出てしも以下續かず。(裏)我軍藤本一飼吉

得点同志社九、本校六	同志社軍	打數 30 6(七回) 9(七回) 4	安打 6
	井 厚 林 鹽 水 本 堂 見 田 濱 清 前 原 志 同 民 川 中 林 竹 若 藤 軍 校 井 厚 林 鹽 水 本 堂 見 田 濱 清 前 原 志 同 民 川 中 林 竹 若 藤 打數 30 6(七回) 9(七回) 4		
一、京都二中對本校	五 A 対 ○ 負	九回ゲーム	
二、京都一中對本校	六 対 四 負	八回ゲーム	
三、大垣中學對本校	四 A 対 三 負	九回ゲーム	
四、全大垣軍對本校	十三 A 対 ○ 負	九回ゲーム	
五、京都商友對本校	十一 A 対 ○ 負	九回ゲーム	
六、京都一商對本校	八 A 対 二 負	九回ゲーム	
七、岐阜中學對本校	十五 対 一 負	六回ゲーム	
八、愛知一中對本校	六 対 三 負	九回ゲーム	
九、第八高等學校對本校	八 対 六 負	九回ゲーム	
十、東山中學對本校	十一 対 四 負	九回ゲーム	

大正十年度野球部成績

(細江省三記)

陸上運動會の記

十月卅一日天長の佳辰、此の日や朝來細雨霏々として、今日の催しや如何に心氣遣はれしも、午前八時を過ぐる頃ほひ、雨は瑞雨と化して名残なく、今日の佳辰をことほぐが如く、一羽の朝鶯麗かかる朝暉を浴びて今し西せんとする時、般々

たる號報は濃かな朝霧を衝いて、古城の邊りに轟きぬ。歡喜と希望と抱負とに充ち満ちたる我が赤鬼健兒の晴の日は、此處に於てかそが火蓋を切りしなり。

第一回 二百米突競走

第一着 竹腰 二二秒3—5

第二着 安居 二一秒2—5

第三着 細江 二百米

第四着 赤田 二一秒2—5

第五着 淺岡 四百米

第六着 新井 四二秒1—5

第七着 牧野 四百米

第八着 夏川 四五秒2—5

第九着 山中 二八秒

第十着 桑原 四二秒1—5

第十一着 北澤 四二秒1—5

第十二着 村田 四二秒1—5

第十三着 大橋 四二秒1—5

第十四着 高橋 四二秒1—5

第十五着 藤野 四二秒1—5

第十六着 川添 四二秒1—5

第十七着 宮内 四二秒1—5

第十八着 堀川 四二秒1—5

第十九着 奥村 四二秒1—5

第二十着 北川 四二秒1—5

第二十一着 上橋 四二秒1—5

第二十二着 的場 四二秒1—5

第二十三着 堀川 二百米

第二十四着 辻 二二秒

第二十五着 北川 二七秒4—5

第一着 田中	二人三脚	第五回
第二着 岸田	鳥居	
第三着 森谷	二九秒4—5	
第一着 橫山	二人三脚	第六回
第二着 那須	三〇秒4—5	
第三着 三橋	二人三脚	第七回
第一着 所	岡崎	
第二着 橋本	水野	
第三着 富永	川崎	
第一着 笠原	大橋	第八回
第二着 北川	西野	
第三着 土田	山中	
第一着 稲田	二人三脚	第九回
第二着 松本	二九秒4—5	
第三着 北村	大橋	
第一着 近藤	西野	
第二着 那須	山中	
第一着 重森	二人三脚	戴臺競走
第二着 辻	二八秒3—5	
第三着 宮田	二九秒4—5	
第一着 西澤	大橋	第十五回
第二着 辻	西野	
第三着 宮田	山中	
第一着 西澤	二人三脚	
第二着 辻	二九秒4—5	
第三着 宮田	二九秒4—5	

いそげば滑る、さりとて走らぬ譯にや行かぬ、落ちたつて拾ふ事は相成らぬ。滑つても手もて支へる事は相成らぬ、苛酷なおきての下に呻吟する揃ひも揃つた青頭のしかみ面、嗟吁、何たる苦痛ぞや？あはれ、羅馬の壓剤も如斯にやありけん

第一着 大谷 二二秒2—5

第二着 森 八百米突

第一着 宮内 二分一一秒1—5

第二着 山本 二分一二秒

三 第十九回 西村 一人一脚 四三秒

第二十回 河口 一人一脚 三九

第二十一回 小林 古池 一人一脚 三九

第二十二回 竹越 古池 一人一脚 三九

第二十三回 松井 勝岡 除外ス 四百米

第二十四回 西村英一郎 四三分四秒1-5

第二十五回 木村 春造 四三、四七

第二十六回 垣見 庸三 四四、四〇

第二十七回 高橋桂太郎 四七、三六

第二十八回 小林 堀井 四八、五四

第二十九回 北川 辻 鰐掴み競走 二四秒3-5

第三十回 上田 小野 鰐掴み競走 二五秒

第三十一回 森居 梶木 鰐掴み競走 二五秒

第三十二回 中村 茂森 鰐掴み競争 二七秒3-5

第三十三回 梶木 鰐掴み競走 二五秒

第三十四回 上田 小野 鰐掴み競走 二五秒

第三十五回 圓城 竹岡 二七秒

第三十六回 布施 竹岡 二七秒

第三十七回 宮尾 竹岡 二七秒

第三十八回 富永 西澤 二百米競走 二〇秒4-5

第三十九回 北川 二着 二百米突競争 二〇秒4-5

第四十回 茂森 二着 除外す

第四十一回 中村 三着 除外す

第四十二回 小川 三着 除外す

青山 嶺次 五〇、四八

川添助三郎 五一、〇七

三浦 尚孝 五六、四五

吉川 清三 五二、五二

平田 信三 五四、二〇

北川 康徳 五六、三〇

澤壽雄 六二、五五

吉川 貞郎 五六、〇三

小梶 義一 五六、二五

一守貞次郎 五五、二五

河村 地平 二三秒

森 奥村 一二三

竹原 三原 一二二

茂森 近藤 一九八

川崎 三原 一九七

吉田 上野 一九六

古川 ト野 一九五

上野 ト野 一九四

圓城 竹岡 一九三

二年級 二年級 一九二

一年級 一年級 一九一

リレー競争 二年級 一九〇

二百米競走 二年級 一八九

二百米突競争 二年級 一八八

二百米突競走 二年級 一八七

二百米突競走 二年級 一八六

二百米突競走 二年級 一八五

第一着 寺林 一九秒4-5

二着 伊吹 堀居

三着 澤居 廣田

第四十四回 除外ス

第四十五回 砲凡投ゲ競争

第一着 松井 勝吾

五分一八二-5

小泉

第一着 宮内

堤

三着 木村

田中

四着 藤本

秋山

第四十回 母衣引

二三秒4-5

第一着 野林

木下

二着 高山

音瀬

三着 瀧本

第47回

第四十一回 勝 白軍

谷澤

四十二回 负

阪東

盲馬競争

西川

第一着 畠浦

第四十八回

二着 千菊

走巾飛競争

三着 大橋

第四十九回

北村

源平野試合

第四十三回 盲馬三脚

第五十回

第一着 秋山

障害物競争

中川

第一着 楠田

四三秒2-5

二着 桂田

二着 藤本

三着 堀居

三着 飯島

## 第五十一回 障害物競争

第一着 田中 四〇秒

## 第五十六回 パン喰ひ

第一着 西村 四十二秒4-5

## 第五十二回 障害物競走

第一着 小菅 西濱

第一着 西村

第二着 榎木

二着 桂田

二着 松本

二着 藤本

三着 蓮井

三着 飯島

三着 小泉

三着 堀居

二着 堤

二着 堀居

第一着 山本

三着 堀居

第五十四回 武裝競走

第一着 地平

二着 堀居

二着 瀧本

二着 堀居

三着 力石

三着 堀居

第五十五回 パン喰ひ

第一着 赤井 小川

第一着 堀居

三着 赤井

三着 堀居

第一着 山田

第一着 堀居

第二着 赤井

第二着 堀居

第三着 小川

第三着 堀居

四年級の考案主催に係る創立一億五千萬年紀念に當れる自由新聞社の發行する毎回の號外は、遺憾なく競技の進行を觀衆に知らしめ、運動會氣分は將に場内にあふれんばかりなり。時に午後三時を過ぎること十數分、會場の一隅千古の老樹たる銀杏の彼方より、奇異の響して、忽焉現れ出たる怪物あり。黒煙黃煙騰々として火の海、煙の海白日爲めに暗黒化し、衆果然として一大驚異に裏はれぬ。暫らくにして件の怪物騰臘の中にそが温を現しぬ。燐々と輝く眼光物凄くあたりを射、

燃ゆるが如き真紅の唇より逃る焰は平和の天地に溢れんとす。

聞くならく、是れ今夏我五年級須彌山突破の壯舉を遂げし時、人跡未だ到らざる千古の谿谷に見出したる蚊龍なりしこ。

第五十七回 バン食ひ

第一着 汗 四三秒

第二着 廣田 四四

第三着 森 伊藤

第五十八回 バン食ひ

第一着 牧野 五三秒

第二着 山田 五三秒

第三着 藤田 五三秒

第五十九回 バン食ひ

第一着 矢野 四一秒 $\frac{1}{5}$

第二着 千種 五一秒

第三着 笠原 五一秒

第六十回 バン食ひ

第一着 若林 五一秒

第二着 竹岡 五一秒

D 走巾跳

四年谷澤 一一、三 得點2  
三年水谷 一一、七 得點3  
五年三原 地平 得點0

E マラソン

五年新井 四五分二六秒 $\frac{1}{5}$  得點5  
四年山岡 四九、四三 $\frac{1}{5}$  得點0  
三年木村 水谷 一四、二五 得點1  
五年木下 一四、二五 得點1  
四年松井 五分一三秒 $\frac{2}{5}$  得點3  
五年木下 五分二〇秒 $\frac{2}{5}$  得點3  
四年宮尾 藤本 五分二六秒 $\frac{4}{5}$  得點3  
四年富永 小森 一四秒 $\frac{3}{5}$  得點2  
三年 得點0

F 一哩

四年宮尾 藤本 五分二〇秒 $\frac{2}{5}$  得點3  
四年富永 小森 一四秒 $\frac{4}{5}$  得點2  
三年 得點0

G 百米

五年宮尾 藤本 一九秒 得點3  
四年富永 小森 一九秒 得點2  
三年 得點0

H 二百米

五年宮尾

三着 中川 二人三脚 第六十一回 川端 三十秒 $\frac{1}{5}$

第一着 塚本 二人三脚 第六十二回 藤本 二六秒 $\frac{2}{5}$

第二着 水野 森 第六十三回 中山 二着 須藤 沙々木

第三着 大西 上野 第六十四回 北川 三着 伊藤

第四着 須藤 上野 第六十五回 五年木下 七〇尺三 得點3

第五着 圓盤投 五年木下 六三、七 全2

A 圓盤投 五年木下 六一、八 得點3

B 砲丸投 五年地平 二五尺三 得點3

C 槍投げ 五年阪東 二七、四 得點3

D 五年牧野 六年八 得點3

E 三年桑原 堀江 二五、九 得點3

F 三年桑原 西澤 一〇二、尺 得點1

G 五年阪東 二五、九 得點0

H 五年阪東 二五、九 得點0

I 四百米 五年木下 二五、九 得點0

J 八百米 五年木下 二五、九 得點0

K 八百米リレー 五年木下 二五、九 得點0

L 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

M 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

N 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

O 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

P 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

Q 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

R 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

S 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

T 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

U 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

V 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

W 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

X 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

Y 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

Z 五年木下 五年木下 二五、九 得點0

第六十五回 除外す  
第六十六回 跑擋み競走  
二八秒 $\frac{1}{5}$

第一着

二着 渡邊

三着 村岸

第六十七回 跑擋み

二七秒 $\frac{4}{5}$ 

第一着 北川

二着 野口

三着 藤居

第六十八回 跑擋み

二七秒 $\frac{4}{5}$ 

第一着 船越

二着 垣見

三着 岸田

第六十九回 二年級体操（室谷先生指揮）

二三秒 $\frac{2}{5}$ 

第一着 宮尾

二着 高等小學校生徒競争（彦根東校）

二三秒 $\frac{1}{5}$ 

第一着 西村

二着 門野（福満）

二四秒

第七十二回 工商業學校生徒（四百米突）

二六秒 $\frac{2}{5}$ 

第一着 林（工業）

二着 赤軍（商業）

二七秒 $\frac{4}{5}$ 

第一着 西村（工業）

二着 三木（商業）

二九秒 $\frac{3}{5}$ 

第一着 赤軍（工業）

二着 山田（商業）

二三秒 $\frac{1}{5}$ 

第一着 棒倒（三年）

二着 白軍（商業）

二一一秒

第一着 三木（工業）

二着 萬木（商業）

二二秒

第一着 萬木（工業）

二着 萬木（商業）

二三秒

「吉野君に戦に臨まんとして凸助に問うて曰く、  
『おう、先輩、おれは滑らしはせまいかと氣懸り  
だよ。』

凸吉「なーに、大丈夫だよ、どんなねべたも征  
服するだけの自心を以て臨み給へ。どんなに滑  
つたて、ぬけおちたて、煩悶せすに!!此位の事  
解決せなくちや現代青年とは云へぬよ。しかし  
君等の様な凸吉では榮冠を得る事はまあ、駄目  
だね。」凸吉「でもね、僕も負けるのはいやだ  
よ。」

第六十八回

跑擋み

ス

第一着 宮尾  
第二着 垣見  
第三着 岸田

第一着 船越（彦根東校）  
第二着 門野（福満）  
第三着 西村（工業）  
第四着 山田（商業）  
第五着 萬木（工業）  
第六着 萬木（商業）  
第七着 萬木（工業）  
第八着 萬木（商業）  
第九着 萬木（工業）  
第十着 萬木（商業）

第一着 棒倒（三年）  
第二着 白軍（商業）  
第三着 三木（工業）  
第四着 萬木（商業）  
第五着 萬木（工業）  
第六着 萬木（商業）  
第七着 萬木（工業）  
第八着 萬木（商業）  
第九着 萬木（工業）  
第十着 萬木（商業）

第一着 萬木（商業）  
第二着 萬木（工業）  
第三着 萬木（商業）  
第四着 萬木（工業）  
第五着 萬木（商業）  
第六着 萬木（工業）  
第七着 萬木（商業）  
第八着 萬木（工業）  
第九着 萬木（商業）  
第十着 萬木（工業）

第一着 萬木（商業）  
第二着 萬木（工業）  
第三着 萬木（商業）  
第四着 萬木（工業）  
第五着 萬木（商業）  
第六着 萬木（工業）  
第七着 萬木（商業）  
第八着 萬木（工業）  
第九着 萬木（商業）  
第十着 萬木（工業）

第一着 萬木（商業）  
第二着 萬木（工業）  
第三着 萬木（商業）  
第四着 萬木（工業）  
第五着 萬木（商業）  
第六着 萬木（工業）  
第七着 萬木（商業）  
第八着 萬木（工業）  
第九着 萬木（商業）  
第十着 萬木（工業）

## 改正スルコトヲ得

## 大正十年度應援團役員

幹部	全般	全幹	全全	副團長	團長							
瀧本 賢曠	三原寅三郎	山本 郷三	中山 重雄	小山 寅三	笠原 康雄	田部 公文	榎木 伊八	高山 四郎	竹中榮之助			
豫算	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇	八三、吉〇
備考	一〇四六、二五五	二〇〇、〇〇〇										

## 大正十年度校友會支出豫算書

各部遠  
征付添  
教師ノ  
旅費ハ  
各部費  
ヨリ支  
辨ノフ

記念文庫  
那部會部  
臨時大會費  
運動會道具代  
整備備理費  
豫算費  
科目

勅語三十年記念文庫擴張費

短艇改造費越高

右本年度積立

野球防禦費積立

右本年度積立

第六十五回 除 外 す

第六十六回 瞬 摺 競走

第一着 渡邊

二八秒  $\frac{1}{5}$ 

第一着 宮尾

二六秒  $\frac{2}{5}$ 

二着 壇見

二七秒  $\frac{2}{5}$ 

三着 岸田

二七秒  $\frac{4}{5}$ 

二三四

二三四〇

## 編 輯 餘 汗

「雑誌が何日出ます」と言つて一月以來一再ならず尋ねられた編者は、其の都度胸に釘打たるゝ切なさを感じて、原稿の手入を出來得る丈急いだのであつたが、色々な事情に妨げられて意の如く抄ららず、尠なからず胸を痛めた事であつた。然るに其も今日やつと編者の手を離れて印刷屋の手に廻ることになつた。軽ては諸君の机上の友となることであらう。

却説原稿一順讀了つて其の成績如何と考へて見ると、苦心の跡歴然として認められる佳作も相當にあつた様だが、又拙い作も多かつた。隨つて没書の憂目に遭つたものも一二でない。由來かうした作にはむて一夜作りの推敲して居ないものが多い。爲に誤字なり脱字あり文法上の誤謬もありて形式上に夥多の缺陷がある上に、内容も頗る貧弱である。又出來ばわが相當であつたが、惜しい哉内容が穩當を缺く爲に、同一運命にあつたものも二三あつた様だ。斬られる馬謖もつらからうが、

之を斬る孔明の方が尚更づらい。どうか次號へ投稿する者は形式上に缺陷の少い穩健な有益且趣味ある作を出して欲しい。次に叙事叙情の文が多くて論説文はたつた一篇しかなかつた。これでは甚だ心細い。由來青年は議論を好み、隨つて論説文を好んで多く書くものであるが、之れがたゞ一篇しか出て居ない。此も確かに缺陷の一つである。次號には是非澤山出して編者を驚倒せしめられ今まで心細い。此も確かに缺陷の一つである。此は事項の軽重によつて、記述に精粗繁簡の差別を立て長きものは成るべく簡素に認めて紙數を少くすべきであらう。以上の外尙言ひ度いことは多々ある様だが今はたゞ以上の三項に止めて置く。此の缺陷は次號に於て繰返す事なき様吳々も御頼みして置き度い。雑誌の體裁其他に就いて種々氣に入らぬ点もあらうが、これは漸次號を追うて改善を加へて行くことにしよう。

終りに臨み本誌へ投稿された諸君、並に投稿勧誘の爲に努力せられた理事諸君の御好意を謹んで感謝いたします。

明治廿七年五月三十日内務省認可

大正十一年三月二十五日印 刷

(非賣品)

大正十一年三月二十八日發 行

發行所 滋賀縣立彦根中學校内  
代表者 杉 山 茂

岐阜縣大垣市郭町百五十三番月

西濃印刷株式會社代表者

印刷人 河 田 貞 次 郎

印刷所 岐阜縣大垣市郭町百五十三番月

西濃印刷株式會社

